



# ZENFUREN

全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

## 附属だより 第119号

全附連ホームページ <http://www.zenfuren.org/>

全附P連最新情報 <https://www.facebook.com/zenfuren>  
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会  
-535185576863562/

~子どもたちとこの国の未来のために~

### 第119号 LINEUP

**令和4年度 新体制委員会 活動方針**  
2~3面

**令和3年度 地区別勉強会道 in 北海道**  
4面

**全附P連作文・絵作文 コンクール2021**  
5面

**全附P連表彰**  
6~7面

**OB訪問**  
細田衆議院議長  
8~9面

**「スクール・コミュニティクラブ ひらの倶楽部」のチャレンジ**  
大阪教育大学附属高等学校平野校舎 主幹教諭  
**松田 雅彦 様**

**全附P連のSDGsの取組み**  
北海道教育大学附属釧路義務教育学校 後期課程 副校長  
**小林 一博 様**

**ファンディング実践例**  
上越教育大学附属小学校 教頭  
**長野 哲也 様**  
10面

**リーフレット『国立大学附属幼稚園からの提案』について**  
荻原 ひろみ 様  
11面

**あいさポーター研修 オンラインについて**  
12面

**全国大会オンライン講演会**  
12面

ご寄稿いただきました皆様の肩書は令和4年6月10日 現在のものです。

## 不安や悩みがあるみなさんへ～文部科学大臣からメッセージ～

★困ったことや嫌なことがあったら、まずは誰かに話してみてください。

**相談窓口の紹介動画**



<https://youtu.be/CiZTk8vB26I>

**電話やメール、ネット等の相談窓口**



0120-0-78310

保護者や学校関係者等のみなさまへ

新年度には児童生徒等の環境が大きく変化する中、児童生徒等の不安や悩みが増え、自殺者数も増加しています。このままでは、危険な事態に発展するおそれがあります。文部科学大臣は、この状況を憂い、保護者や学校関係者、地域のみなさまに、お子さまの不安や悩みをしっかりと聞いて、適切な対応を講じていただくよう呼びかけています。

また、健康や食生活、睡眠、ストレスなど、心身の健康を維持するために、生活習慣の改善や、適切な運動、十分な睡眠をとるなど、心身の健康を維持することが大切です。

文部科学大臣 末松信介

文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課 教員養成企画室長 小畑康生 様

本日、文部科学大臣から、保護者や学校関係者等のみなさまへ、お子さまの不安や悩みをしっかりと聞いて、適切な対応を講じていただくよう呼びかけています。また、健康や食生活、睡眠、ストレスなど、心身の健康を維持するために、生活習慣の改善や、適切な運動、十分な睡眠をとるなど、心身の健康を維持することが大切です。

## 新たな形でのスタート 価値ある事業の展開を図る

一般社団法人全国国立大学附属学校 PTA連合会  
会長 大竹 昌士  
(茨城大学教育学部附属小学校)

令和3年度に続き、令和4年度会長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願い致します。6月11日に開催されました令和4年度第70回総会は、皆様のご協力のもと、初めて対面とオンラインのハイブリッド型開催を実施致しました。3月末に全国のまん延防止等重点措置が解除された後、新型コロナウイルスの感染状況等を考慮しながら総会の開催方法を検討し準備を進めてまいりました。初めてのハイブリッド型ではありましたが、これまで全附P連で行ってきたオンラインでの活動実績のノウハウを活かし、皆様にはご不便や至らない点でご迷惑をお掛けしたかもしれませんが、すべての審議事項でご承認をいただき、今年度のスタートを切ることができました。

このハイブリッド型での開催は新たな取り組みではありますが、これからは様々な事業でハイブリッド型がスタンダードになっていくのではないかと考えています。毎年秋に開催されているPTA研修会全国大会もハイブリッド型での開催をすることで多くの保護者や教職員の方々に全附P連の活動を共有できると考えています。それが、これからの全附P連の姿であるべきだと考えています。

また、令和4年度は全附P連創立70周年の年でもあります。これまで附属学校が行ってきた事、或いはこれから附属学校が行っていくべきことを考え、文部科学省が推奨する令和の新たな日本型教育に貢献していく使命を背負っていかねばなりません。合わせて国立大学の第4期中期計画中期目標が策定され、新たな6年がスタートしました。国立大学の附属学校として公益的、公共的な取り組みが必要とされます。日本教育大学協会、全国国立大学附属学校連盟とも協力、連携し、子どもたちとこの国の未来のために今年度も事業の展開をしてまいります。

全附P連はこれからも皆様にとって価値ある取り組みを実践してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

## 就任のご挨拶 ～アフター・コロナの時代を見据えて～

全国国立大学附属学校連盟  
理事長 吉田 裕亮  
(お茶の水女子大学附属高等学校長)

令和4年度全国国立大学附属学校連盟理事長を拝命しました。お茶の水女子大学附属高等学校長の吉田でございます。わが国の公教育の根幹を支える重要な組織である全附連の理事長を仰せつかりましたことは、大変な栄誉であり、また同時に身の引き締まる思いでございます。新型コロナウイルス感染症の影響は、いまだに全世界を席卷しております。新型コロナウイルスと最前線で戦っておられる医療従事者の方々、また同じくコロナ禍において、児童、生徒ならびに園児を新型コロナウイルスから守り、安全安心な教育環境の確保にご尽力されている学校関係者の皆様方にも心からの敬意を表するものでございます。

このコロナ禍により我々を取り巻く生活環境は大きく変化しました。オンラインによるテレワークやリモート会議等で一部の業務は、代替可能であると知りました。また、それと同時に、オンラインでは決して代替できないものもあることあらためて認識させられました。教科授業以外の学校での学びは代替できない最たるものかと思われまます。

一昨年度は、多くの学校園でほとんどの学校行事の開催が見送られたことかと存じます。お茶大附属高校では、昨年度からは十分な感染対策を講じた上で、少しずつ学校行事を再開しました。そして、あらためて子どもたちの心身共に健やかな育成のためには、オンラインではない学校行事は欠かせないものであることも痛感しました。

これまで、国立大学附属学校園は、教育の実践研究により、様々な校種において日本の学校教育を先導してまいりました。アフター・コロナの時代に向けての新たな実践研究など、国立大学附属学校園の果たす役割は、今後益々その重要性が増してくるものではないかと考えております。

全附連の理事長としまして、微力ながら皆様方のお役に立てよう誠意努めさせていただきます。引き続きのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。



第70回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会総会



初日のハイブリッド開催！
第70回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会総会が、令和4年6月11日に開催されました。
本年度は、3年ぶりに東京国際フォーラムで集合しての開催と、各地をZoomで繋ぎ、YouTubeでライブ配信をする初のハイブリッド型の開催となりました。

令和4年度 活動基本方針 一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

1 共有、対話による理解
2 附属学校PTA活動の活性化
3 対内および対外への広報活動の強化
4 「共に生きる」ことの推進
5 国の目指す教育改革の先駆者として
6 コロナウイルス感染防止対策を考慮したこれからの活動について
7 創立70周年を迎えるの取り組み

令和4年度 (一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 役員・理事・監事・顧問・評議員構成

Organizational chart and membership list for the 70th National Federation of PTA of National University Affiliated Schools. Includes positions like Chairman (大竹 昌士), President (神余 智夫), and various committees.



### 国立大学附属学校園のPTAの皆様へ



全国国立大学附属学校  
教育後援会連絡協議会  
理事長 幡谷 公朗様

全国国立大学附属学校PTA連合会の設立70周年をお慶び申し上げます。我々、全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会は平成29年9月設立、当期で5年目を迎えます。令和2年度はコロナ感染の影響でやむなく活動を休止していましたが、令和3年度より活動を再開、定例理事会を開催し活発な意見交換を行うとともに、オンライン初任者セミナーを開催するところまで漕ぎ着けることができました。

令和4年度は、引き続き理事会を開催するとともに、研修委員会と特別活動委員会を中心に国立大学法人の経理と寄附金の取り扱いを熟知している公認会計士を招いての協議会内部での勉強会を実施し、今後の教育後援会のあり方や寄附金の取り扱いについての考察を重ねており、近い将来、新たな教育後援会のあるべき姿と寄附金の取り扱い実務についての手引書刊行を目指しております。現在、当協議会に加盟している学校園は全国の附属学校園260余校のうち約90校です。当協議会の存在が各校園の教育後援会の活動に有用であることを認知していただくために、積極的に情報発信をしてまいります。

教育振興という国家百年の大計の下、国立大学附属学校園は教員養成という重要な使命を帯びており、附属を取り巻く環境は厳しいものがあります。連盟、P連と後連と手を携えて日本の教育レベル向上と子どもたちのより良い教育環境整備に取り組んでまいります。

今後とも、当協議会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 令和4年度 委員会活動

#### 総務委員会

1. 総務全般
2. 諸会議の設営（総会・正副会長会・理事会・評議員会・地区会長会、運営企画会議）
3. 地区間交流事業の実施
4. 附属学校での取り組みを発信する場の提供
5. 表彰の企画・運営
6. 文部科学省をはじめとする関係省庁、関係団体との連携
7. その他

#### 財務委員会

1. 会計業務全般
2. カンガルー保険関係業務
3. いじめ防止対策活動助成事業
4. 財政教育プログラム関係業務（財務省との連携）
5. 金融経済教育プログラム関係業務（金融庁との連携）
6. その他

#### 広報委員会

1. 広報活動全般（情報収集・情報発信・取材対応）
2. 附属だよりの企画・取材・編集・発行
3. ホームページの企画・運営
4. 絵画コンクールの実施（主管校：福岡教育大学附属小倉小・中学校）

5. 作文絵作文コンクールの実施
6. 特別広報活動（附属学校に関する戦略的広報活動、SNS等）の企画・運営
7. その他

#### 研修委員会

1. PTA研修会第13回全国大会の企画・運営
2. 全国大会実行委員会の運営
3. PTA研修会第14回全国大会の企画
4. 国立大学附属学校全国同窓会との連携、大同窓会運営協力
5. その他

#### 幼稚園特別支援委員会

1. カンガルーシップ活動助成事業の企画・実施
2. 特別支援学校・学級に関する調査研究
3. 就労支援に関する調査研究
4. あいサポート運動関係業務
5. 附属幼稚園の取り組みに関する調査研究
6. 関係団体・特別会員特別支援学校との連携
7. その他

#### 各委員会共通

1. 運営企画会議への参画
2. PTA研修会第13回全国大会への参画
3. 広報活動（ホームページ運営含む）への協力

#### 〈特別委員会・実行委員会〉

##### 全国大会実行委員会

1. PTA研修会第13回全国大会の連絡・調整・実施
2. PTA研修会第14回全国大会の企画・連絡・調整
3. その他

##### 70周年式典実行委員会

1. 70周年式典の企画・連絡・調整
2. 70周年式典の実施
3. 70周年ビジョンの策定
4. その他

##### 70周年特別委員会

1. 文部科学大臣表彰の実施
2. 70周年記念式典来賓対応
3. 70周年記念式典資料作成
4. その他

## 役員・委員長・監事・地区会長の活動方針



**田口 智之 副会長** 70周年特別委員会副委員長（総務・財務・研修委員会担当）  
理事4年目となりました。アフターコロナを見据えながら、子どもたちとこの国の未来のために、全附P連の活動を全身全霊で支えていく所存です。



**谷田部 秀男 副会長**（広報・幼稚園特別支援委員会担当）  
ホームページ・SNSを利用し、全附P連の活動を附属学校園の皆さまに発信するとともに、各学校園での特色ある取り組みも紹介できるように尽力したい！



**萩原 清明 副会長** 全国大会実行委員会実行委員長・70周年式典実行委員会委員長（研修委員会担当）  
多くの方に参加していただけるよう、開催方法を検討し、全国大会が会員の皆さまにとって有意義な大会になるよう全力を尽くします。



**齋藤 伸 副会長**（幼稚園特別支援・広報委員会担当）  
特別支援学校・学級と幼稚園の子どもたちみんなに向けた活動の充実と、保護者のみなさんに開かれた広報を目指してまいります。ご意見お寄せください！



**高地 たか子 専務理事** 70周年式典実行委員会副実行委員長（総務・財務委員会担当）  
70周年を迎える全附P連の歴史の重みを肝に銘じ、時代の激しい変化を見据え、次の時代に繋げる事業を精一杯努めます。



**宮本 昌尚 総務委員長**  
総務委員会委員長として、諸会議がスムーズに進行できるよう運営・準備をまいります。よろしくお願いいたします。



**森川 誠 財務委員長**  
適正な財務諸表の作成と資金収支、予算などの財務管理を行います。また財政・金融の教育プログラム普及の促進、カンガルー保険の拡充、いじめ対策などの活動についても積極的に取り組んでいきます。



**二村 美里 広報委員長**  
附属学校、単位PTAそして全附P連の活動を多くの皆様にお伝えできるよう、電子媒体も取り入れた情報発信に取り組んでまいります。



**山口 泰一 研修委員長** 全国大会実行委員会副実行委員長  
「子どもたちとこの国の未来のために」の全国大会スローガンのもと、附属学校の子供たち、保護者、先生方、携わる全ての方の生きる力となるような心に届く企画立案運営に努めてまいります。



**西村 寧 幼稚園特別支援委員長**  
附属の子どもたちが多様性を理解し、共に生きる意味を知る活動を推進し、附属の質の高い幼児期の教育実践の情報発信に努めます。



**呉本 啓郎 監事**  
総会からの信任を受け、当法人の目的に沿った業務と合理性、適正な会計処理、法令遵守、善管注意義務を監査・検証・助言し、担保できるよう努めます。



**大倉 宏治 監事**  
コロナ禍が明けて各委員会の事業が活発になる一年と思われれます。職業会計人の経験を活かして監事に従事させていただきます。



**大坪 宏誠 北海道地区会長**  
北海道地区の学校園、後援会との連携を強化し、コロナ禍を契機に伝統と革新を融合した新たなPTA活動を創意工夫で行います。



**草刈 寿定 東北地区会長**  
東北地区6県の連携強化と、全附P連創立70周年の節目にこれからの新しい時代に対応した附属学校について模索したいと思います。



**飯島 禎典 関東地区会長**  
混迷の時代ですが、関東地区はしっかりと連携し、子どもたちが安心していきいきと成長できる環境を共に考え、活動してまいります。



**大谷 和弘 北信越地区会長**  
附属学校に限らず全国的にPTAの改革が求められています。地域の改革リーダーとなるべく活動してまいります。



**桑名 良尚 東海地区会長** 70周年特別委員会委員長  
コロナ禍で活動が自粛されて3年目、がんばっている子どもたちの笑顔をもっと見られるよう、課題解決に取り組んでまいります。



**西村 寧 近畿地区会長**  
全国と近畿地区の附属学校園のそれぞれの皆様の持つ情報を繋ぎ、近畿地区の活動を次に繋げ、発展できるように努めます。



**山下 鉄旨 中国地区会長**  
制約があるなか、子どもたちのために繋いでいただいた活動とその想いに感謝し、さらに未来に繋げる活動に取り組んでいきます。



**小川 浩司 四国地区会長**  
附属学校園の意義目的を考え、行動し、地域に広げる役割を地区代表として実践し、ひいては子どもたちの健やかな成長に繋げられるよう活動をしていきます。



**中村 悠雅 九州地区会長**  
コロナとの距離感もやっと見えてきました。PTA活動も去年よりも盛んにし、去年よりも子供たちの笑顔の多い年にしたいと思います。



# 令和3年度 地区別勉強会in北海道



北海道教育大学附属特別支援学校前副校長  
(現北海道中札内高等学校校長) 太田千佳子様

## 1 はじめに

北海道地区は、平成29年8月に「国立教育政策委員会」が「北海道地区の改革に関する有識者会議」の報告書が出されてから、平成29年度（札幌開催）、平成30年度（釧路開催）、令和元年度（函館開催）と3年間連続して、全附P連主催の地区別勉強会を行ってまいりました。北海道は、教員養成大学が北海道教育大学一つではありませんが、北海道の地に4地区、附属学校が点在しています。各地の特色を活かした教育活動が地域の実情を踏まえながら行われているか、有識者会議を受け、改めて客観的に評価する場として大事な場であると考え、開催してきました。新型コロナウイルスの影響で、令和2年度は開催ができませんでしたが、本年度「オンライン」になったとしても、「新しい形」の地区別勉強会を開催しようと、令和4年3月1日に「地区別勉強会in北海道」を開催しました。

## 2 文部科学省 小畑室長のご講演

当初、北海道教育大学の本部がある札幌市での開催を計画し、講師の小畑室長や全附P連の役員の皆様が、札幌市へお集まりいただく予定でしたが、全国的に拡大していた時期でもあり、やむなくオンラインでの開催となりました。



全附P連 大竹会長

図1の開催要項は、集合型で行う想定で作成されたものであり、オンライン開催も想定しており、開催までの準備を整えておきました。

1 目的	文部科学省有識者会議報告書について掲載された課題に対応し、北海道地区の改革を促進し、新たな時代に目を向けて北海道地区の改革をより深く共有し、今後の教育活動の発展に貢献し、北海道地区の改革を推進する。
2 開催日時	令和4年3月1日 (水)
3 開催方法	オンライン (Zoomによる)
4 参加者	【主催・協賛】 文部科学省総合政策局教育政策課長官 小畑 康生 氏 【協賛】 北海道教育大学附属特別支援学校 PTA連合会 高木 啓子 氏 北海道教育大学附属特別支援学校 PTA連合会 会 田中 晃一 氏 【注】 北海道教育大学附属特別支援学校 PTA連合会 会 大竹 伸夫 氏 北海道教育大学附属特別支援学校 PTA連合会 会 神余 直前 氏
5 日程	【地区別勉強会in北海道】 (1) 開会 9:00 - 9:15 (2) 講演 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して 文部科学省総合政策局教育政策課長官 小畑 康生 氏 (3) 質疑・応答 9:30 - 10:30 ① 北海道地区の現状と課題 北海道教育大学附属特別支援学校 玉井 健之 氏 ② 令和の日本型学校教育の推進 北海道教育大学附属特別支援学校 小畑 康生 氏 (4) 閉会 11:20 - 11:55 (5) 謝辞 11:55 - 12:00

図1 開催要項

要である旨を伝えてお話をいただきました。

開催に至るまでの間、有識者会議の委員であった田中事務局長や全附P連の大竹会長には、これまでの形とは異なる地区別勉強会開催の方法について、ご相談いただきました。心から感謝しております。

国立大学附属学校を巡る最近の情勢について

- 国立大学附属学校の現状と課題
- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
- 教員の養成・採用・研修等に関する動向

小畑室長講演資料より

## 3 北海道教育大学附属学校の発表

北海道からは、北海道教育大学の玉井康之副学長から「これからの北海道教育大学の附属学校が果たす役割と可能性」と題して、北海道の広域性・過疎化・小規模校化に伴う公立学校の現状と課題解決の方向性、有識者会議・中審審答申を踏まえた北海道教育大学附属学校の取組の2つの基本的方向性、教員研修機能としてのハブ的役割と可能性、北海道の課題・現代的課題に対応した今後の研究テーマの検討、教育実習における省察（リフレクシオン）方式の開発と「理論と実践の往還」の5点から北海道教育大学と附属学校の課題と今後の取組の方向性について説明がなされました。

玉井副学長からは、北海道教育大学と附属学校の果たすべき役割について以下のように示されました。広域性・過疎化・小規模校化による課題に即した役割を担っていかねばならないこと、北海道教育委員会から北海道教育大学へ教育政策の「特別支援学校を担う役割の拡大」に向けて役割を担わなければならないこと、公立学校が課題とする教員の研修に関するニーズに即していかねばならないこと、令和の日本型学校教育の推進する教育活動の在り方を開発しなければならぬこと、附属学校の教育実習指導方式を公立学校にも普及していく必要があること

北海道教育大学 玉井副学長

附属学校の教育実習指導方式を公立学校にも普及していく必要があること

附属学校の教育実習指導方式を公立学校にも普及していく必要があること

附属学校の教育実習指導方式を公立学校にも普及していく必要があること

附属学校の教育実習指導方式を公立学校にも普及していく必要があること

附属学校の教育実習指導方式を公立学校にも普及していく必要があること

① 若手教員のためのリカレント教育機関を目指して  
② 公立学校のニーズや地域の実態に柔軟に対応する研修企画  
③ 附属学校の実践発表の場から実践研修の場への変換  
④ 地域の教育行政をサポートする附属学校の新たな役割

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

① 若手教員のためのリカレント教育機関を目指して  
② 公立学校のニーズや地域の実態に柔軟に対応する研修企画  
③ 附属学校の実践発表の場から実践研修の場への変換  
④ 地域の教育行政をサポートする附属学校の新たな役割

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

① 若手教員のためのリカレント教育機関を目指して  
② 公立学校のニーズや地域の実態に柔軟に対応する研修企画  
③ 附属学校の実践発表の場から実践研修の場への変換  
④ 地域の教育行政をサポートする附属学校の新たな役割

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

① 若手教員のためのリカレント教育機関を目指して  
② 公立学校のニーズや地域の実態に柔軟に対応する研修企画  
③ 附属学校の実践発表の場から実践研修の場への変換  
④ 地域の教育行政をサポートする附属学校の新たな役割

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長

北海道教育大学 玉井副学長







# 全附P連 表彰

2月に令和3年度PTA団体表彰の応募を開始し、貴重なPTA活動をお寄せいただきました。どの内容も子どもたちへ向けられた優しい眼差しと、コロナ禍でもPTA活動を遂行するという大人の気概を感じさせるものです。今後のPTA活動の参考になれば幸いです。

## 会長賞

### 兵庫教育大学附属小学校 PTA

本校PTAでは、文化部の役員が教育講演会を開催していますが昨年度はコロナ禍で、PTA活動が一切行われませんでした。今年度はオンラインを使って何とか講演会ができたか検討を進め、開催することができました。テーマについては、旧知の先生に性的マイノリティー(LGBT)に関して講義いただくのはどうかと提案しました。

5、6年ほど前、私が学校評価委員をさせていただいた時に、当時の副校長先生に「兵教大附属小でのLGBTに関する先生方の研修などはされていますか?」との問いに「全くやっていません。」との回答があり、また兵庫教育大学の学生にも「LGBTに関する授業はあるの?」と聞いても「え? LGBTって何ですか?」という感じで、その後LGBTの認識の高まりも感じてきたので、小学生のうちからこのようなテーマの話聞く機会を与えてあげるのは必要なのではないか、この思いがあったことが提案した背景でした。

保護者や児童を対象に、令和3年12月にZOOMによるオンライン講演会を実施しました。講師に前田良氏をお迎えし、「性の多様性」について、1年生〜3年生の低学年向け、また、4年生〜6年生の高学年向け、そして保護者向けの3部制でお話をさせていただきました。当日は、校内の二室から二斉配信し、児童は各教室で視聴しました。講師の前田良氏は女性の身体で生まれ、幼少の頃から違和感を抱えておられ、25歳の時、戸籍上も男性となられた方です。

## 文化部セミナー教育講演会「性の多様性について」

「LGBTという言葉最近よく聞かれますが、僕は決してLGBTの前田ではありません。一人の人間、前田良なのです。」という心強いお言葉が印象に残っています。

センシティブな内容であるため、開催に際しては細心の注意を払う必要がありました。特に注意したのが、このテーマに敏感な児童や保護者に対し、プライバシーを守りつつ、次に繋げるためにPTAとして何をすべきか、という点です。この点に関し、以下の取り組みを行いました。①まず、保護者に対しては、事前に案内を配布し、多様性について理解を深めることの提案。②質疑応答については、保護者に対しては事前に質問を無記名で募り、予め前田先生にお伝えし、当日の講演中にご回答していただくという形式をとりました。匿名性を保つためGoogleフォームを用いてアンケートに回答してもらいました。③児童に対しては、講演を聴いた後、アンケートと併せて前田先生への質問や相談を募ることにしました。1、2年生には紙ベース、3年生以上はiPad入力とし、無記名で実施しました。児童からは100近い質問・相談が寄せられました。児童のアンケートからは、「自分らしく生きていいんだ」「悩んでいる友達がいいたら、相談のつてあげたい」「差別はいけない」「前田先生のお話をもっと聴きたい」など、児童の素直さや心の美しさを感じることができて、心が洗われるようでした。と同時に、様々な悩みを抱えている児童の存在にも気づくことができました。④当校教員に対しても「性の多様性」についてのアンケートを行いました。性の多様性に関する受講経験の有無や、講演会

の感想、また、講演中の児童の様子について、教職員先生方にヒアリングすることで、このテーマとより向き合ってもらうことができました。教職員先生方に対してアンケートを取得することは初めてのことでしたが、学校にご理解いただき、実現することができました。⑤講演会当日に視聴できなかった保護者に対して、後日アーカイブ対応を実施し、約1週間視聴できる環境を整えました。前田先生の了承のもと、保護者の部だけでなく、児童の部についても全て視聴できるようにしました。理由としては、性についてどのような内容を前田先生が児童にお話するのかを心配する保護者の不安を払拭するためと、講演を聴いている児童の様子(反応)を実際に保護者にも確認してもらうためです。保護者からは、児童の部も視聴できたことについて安心したという意見を頂いています。お互いの多様性を認め合うことの大切さを学ぶ機会を小学校生活で体験できたことは、今後グローバル社会を生きていく子どもたちには大変有意義であったと思えます。



## 優秀賞

### 京都教育大学附属幼稚園育友会

この企画は新型コロナウイルス感染防止対策のため、大きな行事が中止となり、園内でも会員同士がゆっくり話すことも難しい状況下で実施されました。会員同士の連帯感を醸成することも難しく、かつ対面で話す機会もない中、LINEでやり取りをする必要が出てきました。そんな状況を踏まえて、顔が見えない状況でも相手のことに思いを寄せて、かつ自分のことも分かりやすく理解してもらえるようなアサーティブコミュニケーションなどの手法について講演会を開くことも検討しました。親子にとってどんなことが本当に学びにつながるかを検討し、最終的に考えたのが、「自分も相手も大事にできる気持ち」です。お互いを思いやる気持ちを親子で考え、人権について楽しみながら学ぶことと、一人ひとりの良さを認め合うことや友達を大切に

## 優秀賞

### 京都教育大学附属幼稚園育友会

本園の育友会(PTA)活動は、本部統括のもと、文化・体育・文集・ベルマーク部で構成されています。今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大きな行事は中止となり、時間的には余裕が生まれました。そこで、今年度は基盤づくりに従事し、時短、効率化を目指した活動を実施しました。【育友会会員への伝達方法の変更】印刷物を配布していましたが、今年度は、Webで行うように変更しました。

幼稚園が会員に情報を配信しているkintone(サイボウズのクラウドサービス)に育友会ページを作成し、そこから情報配信する形を取りました。全附連や近附連からの連絡、総会資料、各部からの資料及びアンケート依頼なども全てkintoneにて会員と共有することで、紙・時間の削減に取り組みました。【消毒&美化の受付】コロナ感染防止対策として、園児が使用した

## コロナ禍でも学びを止めないことに チャレンジした活動

することの重要性を実感できる機会とすることを目的に準備してきました。内容は、人権について考え、今の自分を見つめ直してみようVをテーマに、子どもも保護者も楽しめるよう、①指人形・お面・塗り絵・CD「世界がひとつの家族のように」を配布②動画配信「第一部」京都府人権啓発活動の作詞家の鮎川めぐみ氏と歌手のX+氏によるコンサートを開催しました。「第二部」鮎川めぐみ氏講演会「命の大切さについて」と質疑応答というものです。反響は様々寄せられ、人権教育プログラムを通じて、自分自身を見つめなおすきっかけにし、また明日から新しい気持ちで迎えられることができよう、プログラムを構築したことで、お互いを思いやる気持ちを親子で考え、人権について楽しみながら考えることができました。



## 時短・効率化を目指して 基盤業務をより進めた活動

【マニュアル化】会員へのkintone発信方法、ZOOMへの参加方法、Googleフォームを使ったアンケート作成方法、Googleスプレッドシートの活用方法、人数制限付きのアンケート作成方法など、本部および学級委員がマニュアルを見れば実践できるようにすることで、作業時間の短縮化に努めました。

【最後に】毎年必ず必要な業務に関して、誰がやってもこれを見れば分かるものを用意することで、仕事の属人化を減らし、作業軽減を図れると考え準備してきました。来年はコロナが落ち着いた際には一番大事な企画検討に時間を割いてもらいたいと考え、基盤づくりに従事しました。





優秀賞

富山大学人間発達科学部  
附属中学校PTA

この企画は、令和3年7月8日（木）に、富山大学人間発達科学部附属中学校校内で、2年生全員（40人×4クラス＝160名）を対象に開催しました。富山県には県教育委員会が、公立校の中学2年生を対象として継続的に行っている社会体験事業「14歳の挑戦」があります。本校でもこの開催趣旨に賛同し、企業様ご協力のもとで職場体験を実施してまいりましたが、昨年引き続きコロナ禍



にあつて開催中止となつてしまいました。私たちPTAでは、職業観を養う貴重な社会体験事業を継続する方法を模索しました。その結果、本校と本校PTAが持っているプレゼンスとネットワークを最大限に生かして、大学、地域、地元企業、OB・OG、PTA保護者に依頼し、出前授業として講師に依頼してもらい、様々な分野の講演をしてもらいました。本事業は、地元テレビ局や新聞社からの取材もあり、ニュースとして大きく取り上げられました。学校とPTA、地域、産業界が連携して行うことで、社会の変化に柔軟に対応し、夢や希望をもって自立していく子どもを育てることができるといふ文部科学省のキャリア教育における方針を、コロナ禍ではあつても果たすことができたのではない

14歳のゼミナール

かと考えられています。（演題一覧）お金の話・弁護士の仕事・人と社会を守る・SDGsの未来都市とやま・ITの世界現在／未来 いまできること・研究者の仕事とわたしの研究・私の人生、私の仕事、皆さんに伝えたいこと・コンビニの仕事、仕事をする上で大事なこと・Team ANA @ TOYAMA・スポーツドクターから14歳の皆さんへ・建設業の魅力（その他）「第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」受賞



（演題一覧）お金の話・弁護士の仕事・人と社会を守る・SDGsの未来都市とやま・ITの世界現在／未来 いまできること・研究者の仕事とわたしの研究・私の人生、私の仕事、皆さんに伝えたいこと・コンビニの仕事、仕事をする上で大事なこと・Team ANA @ TOYAMA・スポーツドクターから14歳の皆さんへ・建設業の魅力（その他）「第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」受賞

優秀賞

北海道教育大学附属函館小学校  
父母と先生の会

本校では、毎年10月末にPTA主催のお祭り「桐の子祭り」を開催してまいりました。コロナ禍によって2年連続で中止することは、大変残念だという声が多数でした。こんな中でも何か子どもたちに喜んでもらえることがしたい！と試行錯誤し、浮かんでくることが「ミニお楽しみ会」でした。方針として、①サプライズで準備を進める事 ②時間は中休みの15分だけ ③授業時間に迷惑を掛けな

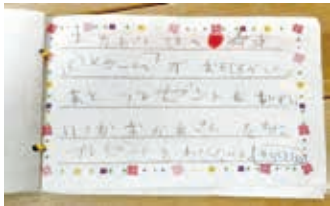


い！と試行錯誤し、浮かんでくることが「ミニお楽しみ会」でした。方針として、①サプライズで準備を進める事 ②時間は中休みの15分だけ ③授業時間に迷惑を掛けな

子供たちの笑顔が見たくて

ということからスタートし、各学年の常任委員に声をかけ、準備を始め、予算はPTA会費から出すことを学校にも了承してもらいました。それぞれの学年で準備を進めつつ、①学年毎に予算は同じに②クイズやゲームなど、それぞれの学年で内容を考える③子どもたち全員に渡す景品は学年に合ったものを選ぶ、ということが決まって、メンバーの気運もどんどん高まってきました。

サプライズ当日、中休みに入るタイミングで突然校内放送をかけました。「これから中休みの時間を使ってミニお楽しみ会を行います。皆さんは教室から出ないでください」と。その放送を合図に各教室に常任委員数名が入室し、お楽しみ会がスタートしました。子どもたちは突然の出来事に、ワクワクが止



優秀賞

北海道教育大学附属函館小学校  
父母と先生の会

本校のPTA活動は「総務8名」をはじめとし、例年総勢56名で活動しています。令和2年度は、総務8名と各部長5名の13名の体制で活動を行ってきました。令和3年度は例年通りの人数で、「こんな時だからやってみよう」と新たな試みを模索しながら活動をスタートさせました。

給食時間は黙食となり楽しみが減り、食が進まず残飯が増えていると聞きました。子どもたちに楽しく給食を食べてもらう方法はないかと考え、「絵本の読み聞かせ」を動画にし、給食中に流してもらうよう提案しま

優秀賞

岩手大学教育学部附属中学校  
PTA

本PTA活動の一つに講演会開催があります。今年度は、東京2020大会に出場されたOGで射撃ピストル女子25m・エアピストル女子日本代表佐々木千鶴選手と、父親で監督である佐々木正広氏をお招きしました。演題は「Dreams come true」自分の力を信じる。生徒・保護者・教職員が参加しました。

前半は射撃競技の内容について佐々木監督が説明をしてくださり、実際にピストルの体験



本校OG 東京2020オリンピック出場選手  
佐々木千鶴選手 講演会

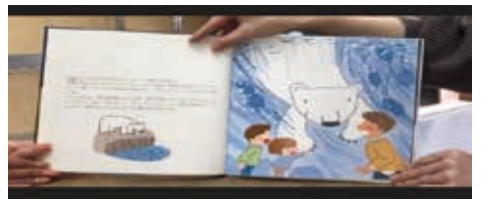
験をさせていただき大変盛り上がりしました。後半は佐々木千鶴選手がアンケートを基にお話しくださいました。「自分が変われば結果が変わる」「思ったら叶えるしかない」「色々な人と話をする」「試合で最高の力を発揮することができるように、練習では沢山失敗すること！」等々いくつもの励みになる言葉を頂戴しました。普段なら見ることでできない選手村の中の様子も話していただき、生徒たちもリラックスして聞いていました。パワーに満ち溢れ、飾らない人柄の千鶴氏の言葉と姿から、やる気スイッチが入った生徒もたくさんいたようでした。心に響く講演会となりました。



十分な感染対策を施し、体育館において対面方式で開催できたこと、入場数を制限したことによって参加できなかった保護者や欠席者に対し、Webexでオンライン配信を附属4校園に行ったこと、生徒達のキャリア形成支援につながったことなど大きな成果を上げました。

WEBを活用して伝えたいこと

した。図書部は先生方の協力を得て、早速動画撮影に取り掛かりました。さらに、動画のリスト化をし、先生が学年に合った内容を選択しやすくなりました。また、読み聞かせだけでなく、校長先生をはじめ副校長先生や先生方のお勧めの絵本や、子どもの頃に大好きだった絵本をインタビュー形式で紹介するなど趣向を凝らし撮影をしました。また、動画は絵本を撮るので、顔を出さなくてよいのなら、と参加し



てくださる方も増えました。デジタル素材ならではの効果を強く感じました。販売部主催の附属グッズ販売と制服バザーは、対面による販売ができなくなりました。そんな時、「附属だより」で紹介された事例を拝読し、本校でもWEBを活用してみようと思いい準備を進め、令和4年度新入学児童に向けた附属グッズ販売と制服バザーを行いました。直接手に取ることができないため、細かな商品情報を明記することを心がけています。また、集計が早くでき、ミスが少なくなることなど利点もあります。これらの良さも踏まえ、今後は感染状況も鑑みながら対面販売と併用できればと思っています。





大竹会長 対談 細田博之氏

# 友に恵まれた附属時代

学校、以下筑駒)に入学したのは昭和32年です。前身は東京帝国大学農科大学・農学部附属学校を母体とした専門学校である旧制東京農業教育専門学校の附属新制中学校であり、ここから数えて11期生になります。学校周辺の敷地は、戦前には輜重という兵站を担当する輜重第一連隊、近衛輜重連隊の2つの輜重連隊と騎兵第一連隊の3つの陸軍施設でした。中学を入学

授業の進度は早く、各教科1年半くらい早く進んでいたのではないのでしょうか。勉強ができる生徒にはこれくらいのスピードの方がよかったですかもしれません。特に数学はできる生徒が多かった印象で、いきなり高度な数学をする同級生はよく見かけました。



細田 生徒列伝

世の中には様々な人がいることを知った筑駒時代でした。中学校は定員80名のところ86名が合格。高校からは、まだ残っていた農業科の15名程度と合わせて30名が入学し、125名の同期となりました。6年で絆が深まったことは間違いありません。人生で最も多感な時期に6年間共に学んだ友人を得ることができたことは一生の財産となっています。78歳となった今でも同窓会では40名くらい集まります。

進学先に筑駒を選んだ理由は通学の事情です。当時は父親の仕事の関係で、三鷹の井之頭公園周辺にあった公務員官舎に住んでおり、小学校は杉並区の学校に通学していました。麻布や開成といった私立学校、大塚(筑波大学附属中学校・高等学校)は遠く、深沢(東京学芸大学附属世田谷中学校)も意外と遠かった。消去法ではないですが、後に述べますが、通っていた進学塾の仲間の多くが受験することもあって筑駒に決めました。中学校では陸上部、高校では科学部と部活動も熱心に取り組み、充実した6年間でした。

苦勞して戦争から戻ってきて教育者として、次世代を担う若者を教育していこうという気概を感じましたし、そのような人生観は生徒に影響を与えたと思います。

大竹 通常の教育以外にも課外活動も活発だと伺っています。

細田 課外活動あつてその筑駒

人のことは言えませんが、入学してみると野菜の「もやし」みたいな連中が多かったです。こんな状況で座学中心の学業だけだとダメだと思ったので、学校の方針で6年間に実によく多くの課外活動がありました。生物の先生が指導して八ヶ岳登山をする野辺山合宿、富津海水浴場での水泳合宿、野沢温泉でのスキー教室、多摩川の土手で行われたマラソン大会、最大行事の文化祭に部活動も盛んでした。そして、東京農業教育専門学校附属中学校の系譜を継ぐ筑駒の伝統は、「ケルネル田圃」における田植えと稲刈りでしょう。「ケルネル田圃」とは東京農業教育専門学校の前身の駒場農学校でドイツ農業技術を教えたケルネル教授の名を冠した水圃です。我々の頃は農業科の先生が農業指導をしてくださいました。収穫した米は入学式と卒業式の折に赤飯にして、新入生および卒業生に供されます。

附属についての考え

大竹 附属の教育は今後どうあるべきか、ご意見を聞かせください。

はじめに  
大竹 この度はご多忙のところ「附属OB訪問」の取材にご対応いただき、ありがとうございます。附属出身者で三権の長とされる方が輩出されたことは大変喜ばしいことだと思います。  
細田 本日は公務員ご多忙の中、衆議院議長公邸にご足労いただきありがとうございます。功成り名遂げた卒業生の多い中で、選んでいただき大変光栄に思います。過去の対談を拝見させていただきましたが、取材対象者は多方面の第一線で活躍している多士済々ばかりでした。この多様性が附属の良いところだと再認識させていただいた次第です。また、諸先輩方や後輩の皆様が活躍しているところを見ると私も励みになります。

大竹 筑駒と言えど国内屈指の進学校ですが、当時の筑駒は現在のような進学校ではなく、9期、10期までは東大進学者は20名程度でした。11期は東大進学者が45名となり、現在まで続く進学校は我々の代から始まったと思っています。

細田 進学校としての筑駒は我々11期生から

## 附属時代

### 大竹 附属時代について

では初めに、附属時代のご様子や思い出などをお聞かせください。

### 細田 筑駒について

この度の取材を機に記憶を辿ってみました。(多少の記憶違いがあるかもしれませんが、ご容赦下さい。)私が東京教育大学附属駒場中学校・高等学校(現在の筑波大学附属駒場中学校・高等

大竹 同級生には黒田日銀総裁、同窓生には尾身茂先生など各界の指導者、オピニオンリーダーと筑駒の優れた卒業生には枚挙にいとまがありません。附属時代の6年間で、同級生や先輩後輩などで何か思い出などございますか。

先生など各界の指導者、オピニオンリーダーと筑駒の優れた卒業生には枚挙にいとまがありません。附属時代の6年間で、同級生や先輩後輩などで何か思い出などございますか。

附属の教育は今後どうあるべきか、ご意見を聞かせください。  
細田 附属の教育の在り方について議論するにあたっては、公教育への成果還元と優れた能力を持つ児童・生徒に対する教育に分ける必要があると思います。附属と公立学校との違いは入試を経て入学していることであり、ある程度の学力が試されているのは、実験校としてのあらゆる試行錯誤に耐え、自力で学力をリカバーすることを期待されているからではないでしょうか。失敗を恐れず先進的な試みを行うことは、様々な背景をもつ児童・生徒が集まる公立学校では難しいでしょう。これこそ、公教育における附属の存在意義です。貴会の姉妹団体である全国国立大学附属学校連盟が掲げる「公教育を支えます」とのメッセージには大いに賛同するものです。  
もう一つは、突き抜けた能力を持つ児童・生徒の可能性を最大限発揮できる教育の在り方を考えることです。ギフト教育について方針が示されましたが、様々な状況に配慮して抑制的な印象を持ちました。能力が飛びぬけている生徒については、能力を伸ばし開花させないといけない、先に行ける人は行き着くところまで先に行かなければならない、一芸に秀でたもの





や興味あるものはそれを特化させ伸ばさないといいけないと私は思います。優秀な生徒が多いのに集まったエリートにさらに伸ばすような教育ができていくか。学校や教員はそのための導きをし、そのための自由を与える。ところが、学校は東大や医学部に入れることが目的になっていませんか。そもそも、附属にいる高い能力を持った生徒にとって、東大の合格なんてものは自分の能力を伸ばす過程で結果として自然と付いてくるものであります。東大を目標とさせられることで楽をしているし、人間を小さくしています。東大に入って、一流企業に入って、悪いことではないですが、特別良いこともありません。それは教育ではなく、要求するレベルが低いのはよくないことです。優秀な子どもに少しづつさせるのは能力を摩滅させることになりません。我が国では、何事にも平等であることが尊ばれ、突出してはいけないという教育が長かったです。能力のある人間には楽をさせ、自己満足させてしまう教育であり、平等教育の最大の欠点であると思います。結果として、能力を潰してしまっています。これでは、21世紀には対応できない。20世紀は組織迎合でよかった。組織の団結が優先され、異を唱えることをせず、コソコソとそれなりの生産性を上げる。それでよかった時代です。突出した能力は、団体行動には邪魔になったかもしれない。しかし、社会の摩擦を避けて円満に人と付き合うことで成果を出す時代は終わりました。激しい競争と先端への努力を評価し、自由にさせて社会を変革するような破壊的イノベーションを創造する高い能力を最大限に活かし、社会全体としてその恩恵を受ける方向にシフトしている。

附属に限らず、日本の教育ではエリート教育を怠ってしまった。附属は公教育への貢献と並行して、社会貢献できる突出した人材の育成をやるべきです。そして、その中から更に天才を伸ばさないといいけません。学問を究めることは必要なことです。筑駒や他の附属に合格したが、尖った教育を行うことが評価されている私立に進学する生徒が出てきていくと聞いています。また、旧制第一中学を全身とすような各地方をリードするような県立高校

# 時代をリードする教育とは

では中等教育学校を設置して6年一貫教育としています。現在の附属の最大の弱点は高校がないことです。受験対策をしないで、全人的な教育を探求する附属は6年一貫教育の方が成果を出しやすいと思います。附属が時代に合った教育ができていくのか、時代をリードする教育ができていくのか。岐路に立たされておられ、附属出身者として今後の動向を注視していきたいと思えます。

## 附属議連

**大竹** 国会の中では、附属学校出身の国会議員が多いと聞いています。国会にいる中で、どのように感じていらっしゃいますか。

## 細田 国会最大派閥は附属?

国会には党派を超えて附属出身の議員が多い印象です。そして総じてどの方も優秀です。国会の予算委員会が論理的かつ弁舌鋭く質問する議員（今も現役です）がいました。記憶は定かではありませんが、お話しする機会があった際にお互いが附属出身者であることが分かり、立場は異なりますが、親近感を覚えました。その方とは所属する政党や主義主張は異なりますが、違う立場でお互いを尊重し、国家のため、国民のために議論しようとする姿勢の根底には附属で学んだ経験があると思っています。

出身学校は最終学歴の大学で語られ、東大や早慶が目立ちやすいですが、高校以下の学校のグループで定期的に集まっている人たちもいます。現首相の岸田総理の卒業高校である開成高校の結束は固いと聞いています。そういった観点から考えると、附属というカテゴリーでは与野党問わず出身の国会議員は多い。地理的には全国に広がり、学年では幼稚園から高校まであり、特別支援学校も含まれることを踏まえると、国会では最大「派閥」かもしれませんね。我々国会議員も最終学歴ではない義務教育や高校のバックグラウンドについて、個々の議員の情報は持っています。全国国立大学附属学校PTA連合会さんで情報収集されてみてはいかがでしょうか。

## 大竹

附属出身の国会議員が多い中で、国立大学附属学校振興議員連盟（附属議連）と国立大学附属学校全国同窓会（附属同窓会）が発足し、国

会から附属学校を支援して下さる動きが出たことは我々PTAにとっても大変心強く思っています。

## 細田 附属議連会長の森英介衆議院議員（東京学芸大学附属世田谷小中、同高等学校）昭和42年卒、元法務大臣）と附属同窓会会長の塩谷立衆議院議員（静岡大学教育学部附属幼稚園、同附属静岡小中学校）昭和40年卒、元文部科学大臣）は同期当選組であり、公私共に仲良くしている仲間です。その同期二人が出身の附属のために働いていることは知っており、それぞれ会員に入れていただきましたが、名ばかりの会員で何もできていなかった中で、今回「附属だより」の附属OB訪問の企画をいただきました。少しでもお役に立てれば幸いです。

もう一つ重要なことは、文部科学省の大臣に附属出身者がいることも重要であると思います。塩谷君が初めて文部科学大臣に就任し、附属学校出身の文部科学大臣は長くないなかつたのですが、現職の末松大臣が附属出身者として二人目の文部科学大臣となりました。附属学校で学び、附属学校の必要性を肌身で体験している大臣がいることで附属学校への理解促進が進むことを期待しています。

## 現役生、教職員、OBへのメッセージ

**大竹** 最後になりましたが、全国の附属現役生・保護者、教職員、そしてOBの皆様にもメッセージをお願いします。

## 細田 「現役生」

附属の良き伝統を継承し、次世代に繋げていくのは附属の主人公たる現役生の皆様であることを自覚してください。

公立学校と比べて生活困難家庭が比較的少なく、家庭のバックグラウンドなどが近似して多様性に乏しく、実社会の体験が難しいことが附属の

欠点かもしれません。世の中には、大変な状況で生活している方々がいることを認識し、自ら置かれた恵まれた境遇や環境で得られる能力を社会に還元して欲しいと思います。

## 「保護者」

国が附属の支援を年々減少させていく中で、保護者の皆様のご支援なくしてこれまでの附属の教育を維持・発展させることができないこと、大変心苦しく思っています。先程ご紹介しました、附属議連などを通じて皆様の声を届けることが必要と感じています。

## 「教職員」

教職員の皆様は、働き方改革による勤務時間の短縮化の流れを受けてより効率的に時間を使うことが求められます。教職員の皆様こそが脈々と続く附属の根幹となる方々です。伝統と時代が求める教育のバランスを以て教育に臨んでいただきたいです。

## 「OB」

OBの皆様にはそれぞれのお立場でご活躍のことと思います。現在、附属の置かれた立場は非常に厳しいです。附属の教育の良さを最も知っているOBの皆様が、全国の附属の応援団として附属を支えて欲しいと思います。細田議長のメッセージを全国の附属関係者に届ける良い機会となりました。この度は本当にありがとうございます。



## 細田氏プロフィール

- 出身：島根県松江市出身
- 生年月日：1944年生まれ
- 趣味：読書、コンラクトブリッジ
- 1957年 東京教育大学附属駒場中学校・高等学校（現：筑波大学附属駒場中学校・高等学校）
- 1963年 東京大学法学部
- 1967年 通商産業省（現：経済産業省）入省（産業政策局物価対策課長などを務める）
- 1986年 通商産業省退官
- 1990年 衆議院選挙初当選（通算11期連続当選）
- 2002年 科学技術政策担当大臣兼沖縄及び北方対策担当大臣
- 2003年 内閣官房副長官
- 2004年 内閣官房長官
- 2008年 自民党幹事長
- 2021年 衆議院議長



# 寄稿



大阪教育大学附属高等学校  
平野校舎  
主幹教諭  
**松田 雅彦様**



卒業生との一緒に楽しむ部活動



課題解決学習としての体育授業

スポーツ庁は、令和5年7年度を部活動地域移行の「改革集中期間」とする提言案\*を示しました。部活動を地域移行するには「保護者・生徒および教員等への説明・理解」「受け皿団体の持続可能性」「活動費用の確保」「施設使用料」「指導者等の育成・確保」「対外試合への対応」等の課題があります。そして、今後生徒や教員が地域部活動として活動するには、学校内に受け皿組織をつくるか外部の団体と学校が連携・協働するかの二択となります。その選択基準は、どちらがより安価でより多くの生徒にスポーツや音楽・芸術を楽しむ場を提供できるかと考えます。本校では、外部団体と連携する場合、費用が高額になることや契約条件が合わなくなり撤退される可能性があることから前者を選択し、令和3年3月に「スクール・コミュニティクラブひらの倶楽部」を設立しました。現在は、一般社団法人化（令和5年度を予定）に向けて準備を進めています。

## 「スクール・コミュニティクラブ ひらの倶楽部」のチャレンジ ～ 部活動の地域移行への対応 ～



子ども遊び教室



卒業生が現役のリーダーを育成



図1 スクール・コミュニティクラブひらの倶楽部の事業構造

部活動を地域移行するに、はじめに必要なことは情報共有です。保護者・生徒・教員・OB・OGへ今後の部活動がどうなるかを説明して理解を求めます。部活動の地域移行が自分事化にならないと地域移行はできません。次に生徒会の自治化、部活動の自律化がポイントとなります。生徒会活動においてリーダーを育成し、卒業後もひらの倶楽部に関わってくれる人材を育成します。そして、専門的指導者がいなくても自分たちで目標を持って計画的に活動できる資質・能力を養う（自律化する）ことで、指導者確保の問題を解決しようと考えています。本校においては、体育授業に課題解決学習を導入することで、その資質・能力を育んでいます。

ひらの倶楽部には校内事業・交流事業・地域事業（図1）の3つがありますが、現在は法人化に備えた組織基盤強化のため校内事業を中心に活動しています。

\*「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言（案）」スポーツ庁：令和4年4月26日



北海道教育大学附属  
釧路義務教育学校後期課程  
副校長  
**小林 一博様**



地域の保育園・幼稚園等にも働きかけて生徒による回収作業

本校は、平成30年にユネスコスクール加盟認定を受け、総合的な学習の時間を中心に「SDGsの視点」を意識した取り組みを積極的に推進しています。

一昨年は、コロナ禍により自粛いたしました。昨年度は、感染対策に配慮して2年ぶり2回目の取り組みとなる「服のチカラプロジェクト」に参加いたしました。このプロジェクトは、民間企業のユニクロ・GUが行っている教育普及活動の一環として実施する事業に、学校が窓口となり、生徒が主体的に参加・協力するものです。

ねらいは、生徒一人一人の意識を他人事から自分事として、身の回りの事象を捉える意識の向上です。SDGs活動の活動は、生徒の気付きや行動化を図るのに効果的な活動です。未来の社会の形成者としての気づきと意識を高めることにおいて、持続可能な社会の実現に向けた「17の目標」は、明確でわかりやすく、自分の興味・関心や社会問題として感じていることが、どの目標に当てはまるのかを点検し、生徒の生活にどう活かせるかを考えることで、

## 自分事として自らの意識を高める持続可能なSDGs活動への取り組み



保護者や地域住民、周辺施設から提供された服の分別・仕分け作業



令和3年度「服のチカラ」プロジェクトにおける協力・提供総数は「2228枚」

として実施している「サンセットフェスティバルin附中」では、多くの保護者や地域住民の賛同を頂き、フェスティバル期間に1,106枚の協力を得ることができました。活動は11月まで実施し、地域の保育所や幼稚園、企業等にも生徒が主体となり協力を呼びかけた結果、昨年度は、2,228枚の想いを届けることができました。

本校が求める「地域に根ざすリーダーシップ、フォロアーシップの育成」の具現化を図るため、「SDGsを視点」とした教育活動は今後も重要な力ぎとなります。生徒の活動を広く地域にも開き、様々な人々への協力や理解を求めていく経験は、これからの学校教育において欠かせないことであり、生徒たち自らの学びと成長の機会となります。

今後も社会に求められる学校や未来の教育を目指す羅針盤を追い求め、発信し続けていきます。



上越教育大学附属小学校  
教頭  
**長野 哲也様**



令和3年度、当校は開校40周年を迎えました。それを記念し、「古いものや歴史を大切にしながら新しい時代を切り拓いていってほしい」という願いを込め、当校の多目的ホールの片隅に長い間置かれたままになっていたグランドピアノを復活させる「音故知新プロジェクト」が立ち上がったのです。

そのピアノをよく調べてみると、世界三大ピアノの一つであるスタインウェイ社が1927年に製造した世界的にも有名な名器であることが分かりました。しかし、長年放置されていたことから、調律はおろか、正しい音も出ない状態となっていました。そこで、このピアノを復活させ、多くの方に名器の音色に親しんでもらおうと、本プロジェクトが立ち上がったのです。

名器の復活に向け、卒業生や保護者、同人や地域の方々に、ピアノ修理のための寄付を募ることになりました。

## 「音故知新プロジェクト」で復活したスタインウェイ社製ピアノ



創立記念日の記念式典では、復活したピアノのお披露目も兼ねたコンサートを開催しました。コンサートで当校の小さなピアノニストが演奏すると、美しい音色が体育館に響き渡りました。その後、より多くの方にピアノに親しんでもらおうと、当校の多目的ホールに「附属小ストリートピアノコーナー」を設置しました。ストリートピアノコーナーでは、休み時間などに多くの子どもが自由に演奏しています。今後は、ミニコンサートを開催したり、市民に開放したりすることを通して、より多くの方に復活したスタインウェイピアノの音色を楽しんでもらおうと計画しています。



# リーフレット『国立大学附属幼稚園からの提案』について



資料①

全国の教育委員会、幼稚園や保育所など多くの幼児教育施設に配布し、研究や園内研修等に活用していただいております。

全国には49園の国立大学附属幼稚園があり、全園が「全国附属学校連盟幼稚園部会」に所属し、会員363名（令和3年度4月1日現在）の協力のもと様々な研究活動を行ってきております。主な活動として、毎年7月に「幼稚園教育研究集会」を実施し、幼児教育における喫緊の課題をテーマに4分科会を設定し、研究発表を行ってきています。また、2014（平成26）年より毎年「文部科学省委託研究」を受託、49園が結束して大きな研究成果をあげています。こうした研究の推進、そして、研究成果の地域への還元は附属学校園の使命であり、全国の各附属幼稚園における研究成果をもっと多くの幼児教育施設に還元することはできないか、そんな思いで作成されたのがリーフレット『国立大学附属幼稚園からの提案』です。2008（平成18）年3月に発行された第1巻以降、毎年発行され、2022（令和4）年3月には最新号16巻（資料①）が出されました。テーマの一覧表（資料②）からはその時々の課題が取り上げられてきたことが分かります。発行以来、リーフレットの内容としては、担当園からの「研究成果」、テーマに即した大学の先生方からの提言としての「コラム」、そして全国の附属幼稚園の研究主題と公開研究会の実施日の「国立大学附属幼稚園研究一覧」を継続して掲載してきています。令和3年度は10,000部を印刷。全国の教育委員会、幼稚園や保育所など多くの幼児教育施設に配布し、研究や園内研修等に活用していただいております。



全国国立大学附属幼稚園副園長会会長  
山梨大学教育学部附属幼稚園  
副園長 荻原ひろみ様

リーフレットテーマ一覧	
『国立大学附属幼稚園からの提案』	
2006年度	NO.1 幼児教育と小学校教育をつなぐために
2007年度	NO.2 幼児教育を見つめるための評価
2008年度	NO.3 幼児の育ちの現状と課題
2009年度	NO.4 教育内容の改善—幼稚園教育要領の改訂を踏まえて—
2010年度	NO.5 協同して遊ぶことに関する指導の在り方
2011年度	NO.6 附属幼稚園における子育ての支援
2012年度	NO.7 附属幼稚園における健康な心と体を育てる“食育”の取組
2013年度	NO.8 言葉を豊かにしていく経験や援助の在り方
2014年度	NO.9 自ら体を動かして遊ぶ経験や援助の在り方
2015年度	NO.10 多様性と関連性のある経験を通して幼児期の学びを深める指導の在り方
2016年度	NO.11 遊びや生活を通して思考力を育む
2017年度	NO.12 保育内容の充実を図る園内研究のあり方
2018年度	NO.13 遊びの中で主体的・対話的で深い学び
2019年度	NO.14 遊びを支える教材の工夫・教材研究
2020年度	NO.15 遊びを充実させる環境構成の工夫
2021年度	NO.16 質の高い幼児期の教育

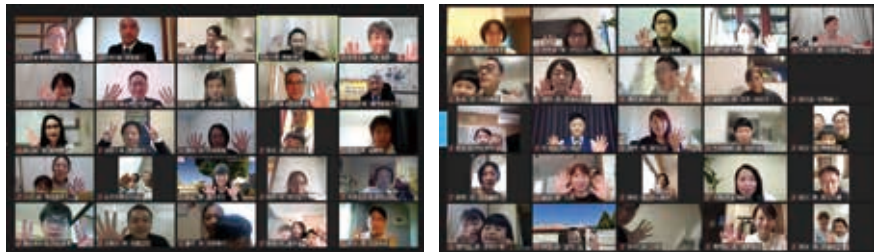
資料②

第1巻から第15巻までは、一つのテーマに沿った研究成果の掲載を行ってきました。そして新たな取組として、令和3年度発行の第16巻からは幼稚園教育研究集会の四つの分科会主題「幼児教育におけるICT活用」「言語活動の充実」「探究心の育成」「幼児教育における多様性」とリンクしながら分科会での発表内容を分かりやすくまとめて掲載しております。いただいたご意見やご感想などを参考に今後見直しを行い、さらに内容を充実させていきたいと思っております。実際にはこのような小さな部会において、日々の保育に携わりつつ、研究集会、文部科学省委託研究としてリーフレット作成といった研究活動を継続していくのは正直大変なことではあります。しかし、各園とも附属幼稚園ならではのこうした活動を通じたつながりを基に互いに刺激し合いながら、保育の質の向上を目指して奮闘しております。国立大学附属幼稚園は、今後も一貫して、義務教育及びその後の確かな基礎となる『質の高い幼児期の教育』を実践し、研究成果を還元してまいります。引き続き、研究会や公開研究会などの研究活動に対する保護者の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 幼稚園保護者交流会

特別支援委員会は、特別支援学校・学級の事業だけではなく、幼稚園事業もサポートするため、令和3年度から幼稚園特別支援委員会に生まれ変わりました。

幼稚園事業の活動第一段として、『附属幼稚園での自由な保育によって育まれる子どもたち』をテーマに、附属幼稚園で実践されている特色ある保育を理解しあう交流会を開催しました。全国の附属幼稚園のお父さんお母さんがZoomで繋がり有意義な時間を過ごすことができました。



### ・パネルディスカッション

講師に佐々木 晃 先生（鳴門教育大学附属幼稚園 前園長）、泉 真理先生（上越教育大学附属幼稚園 前副園長）、荻原 ひろみ 先生（山梨大学教育学部附属幼稚園 副園長）を迎え、田中 一晃 先生（全国国立大学附属学校連盟 事務局長）の非常に柔らかい雰囲気での進行のもとディスカッションをしていただきました。

佐々木先生の「附属幼稚園の目指すものは、子どもは何をやってもいいというチープな自由ではない。子どもを本気で育てるためには保護者・教員が協力し、どんな方法を取ってもいいという自由である。」というお話から、私たちがイメージしていたよりもずっと深いお考えのもとで子どもたちに関わっておられることを認識させていただきました。また、泉先生の「ちょうど昨日、卒園児保護者が訪ねてきてくれた。」というお話から保護者との強い信頼関係を感じ、荻原先生の「先生は幼稚園に住んでいるの？」と聞かれたという園児との微笑ましいエピソードからは、普段から寄り添っておられるからこそ、そういう印象を子どもたちが持つのだと感じました。どのお話も大変興味深く、お話の内容と画面越しに伝わる先生方のお人柄から附属幼稚園の取り組みに対し、改めて理解と安心感を深められたと思われました。

### ・交流会

先生方に様々な質問にお答えいただきつつ、交流を行いました。遊ばせているだけに見える場面があると感じていた保護者の不安に「その中には意図と計画がある。」ということや、それを見守る教員には忍耐強さも必要であるとお話がありました。また、母親に集中しがちな子育ても「父親がお休みに連れ出してくれるだけでもかなり負担感が減る。」というすぐ実践できそうなお話もありました。

本事業が附属幼稚園の取り組みへの更なる理解につながることを願います。

## 特別支援保護者交流会

令和3年12月11日に令和2年度に引き続き、令和3年度も特別支援保護者交流会を開催しました。今年度は全国の特別支援学校の保護者・教職員の方総勢35名の参加を頂き、オンラインにて行いました。

まずは長野保健医療大学特任教授の北村弥生先生による基調講演が行われました。

講演の中で「災害と障がい」について最新の制度や自治体の取り組みの紹介等がありました。その中で避難所の運営や財政支援の現状が分かりやすく、政府のガイドラインの解説も丁寧に説明していただき、障がいを持った方は事前の準備・計画を十分に立てる必要があることが分かりました。例えば災害のために停電になると電動のリフトで車いすに乗り降りしていた方は身動きができなくなり、避難が遅れるといったことになりかねません。しかし、そのような事態を想定してヘルパーさんがもう一人いれば移動可能になるということでした。

つまり近所や専門家と相談しながら個別の避難計画を立てることが大切であり、地域の特性（リスク）を知り、場所の確認や下見、また災害時の情報入手方法の確保が必要になると教えていただきました。

次に宮城教育大学附属特別支援学校の活動紹介で、東日本大震災を経て行っている現在の取り組みの紹介がありました。避難訓練はよりリアルに、身を守りながら避難したり、慣れない避難所で食べられない非常食を食べる練習をしたりと保護者とも連携して安心して避難できる訓練が行われていることに感心しました。

最後のグループディスカッションでは講演や取り組みをもとに、不安軽減や避難所での困難を共有する必要性を話し合い、通学路での被災時への対処法も考えるべきであるとの意見もあがっていました。そして自分の身を守る・想定しておくことが必要で、学校や社会と関わり合い、訓練することが大切だと締めくくられました。

今回の交流会では「防災」という切り口で被災時の社会の現状や経験者の取り組みが聞け、特別な配慮が必要な子どもたちにとっての準備の大切さがみんなで情報共有でき、新たな気づきが得られたと感じました。今後も様々な問題をテーマに交流会を企画してまいります。みなさまのご参加をお待ちしております。





# 令和3年度 全附P連助成事業報告

## 令和3年度 いじめ対策活動等助成事業一覧

国立附属学校においても、いじめ問題は深刻な課題です。私たち保護者をはじめ、子どもたちや先生方にも、いじめに対する理解や予防のあり方などを学ぶ機会が全国的に展開されていくことを目的とし、上限4.9万円とし助成を実施しました。今年度の特徴としてコロナ禍の時代に即した対応として集合型とYouTubeなどを使ったオンラインとのハイブリッド型で開催をした学校が増えました。

学校園名	事業名
京都教育大学附属幼稚園	保護者と子ども向け人権教育プログラム 「人権について考え、学ぶことで、今の自分を見つめなおしてみよう」
香川大学教育学部附属高松中学校	人権講話
神戸大学附属小学校	情報モラル講習会
神戸大学附属幼稚園	講演会「安心して利用するために知っておきたいネット内でのいじめリスク」

## カンガルーシップ活動助成事業

「障がいについての理解につながる活動」や「特別支援学校・学級との校種を超えた交流」におけるPTAでの新しい取り組みを応援する事業です。お互いの個性を活かし認め合う共生社会を附属学校園から理解・発信していきましょう。

## ネイバーサポート活動

学校名	活動名
岐阜大学教育学部附属小中学校	「防災について親子で体験しよう」 災害時に考えられる困難を支援が必要な児童生徒の立場から考え、体験する事業。

# あいさポーター研修オンラインについて (茨城中・香川特支)

全附P連はさまざまな障がいへの理解と啓発を目的とする「あいさポーター運動」を推進しています。この運動の中心である「あいさポーター研修」は、お申し込みいただいた学校園へ講師をお送りし、開校以来、おかげさまで、コロナ禍の観点から、都道府県をまたいだ講師派遣を自粛しつつ、オンライン研修を模索・構築しました。令和3年11月に茨城大学教育学部附属中学校1学年のみならず、茨城の中学校・高等学校の先生方にも研修を行いました。この研修は、先生方の「あいさポーター研修」の重要性を再認識し、研修の機会を多くいただくことを目指しています。

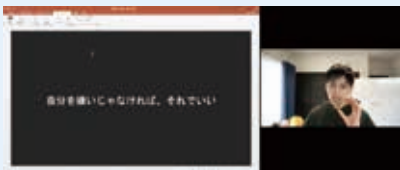


本講演会は、これまで集約型の開催であったが、今年度は、分科会形式での開催となりました。令和4年2月には香川大学教育学部附属特別支援学校PTAのみならず、また、お申し込みいただいた学校園へ講師をお送りし、開校以来、おかげさまで、コロナ禍の観点から、都道府県をまたいだ講師派遣を自粛しつつ、オンライン研修を模索・構築しました。令和3年11月に茨城大学教育学部附属中学校1学年のみならず、茨城の中学校・高等学校の先生方にも研修を行いました。この研修は、先生方の「あいさポーター研修」の重要性を再認識し、研修の機会を多くいただくことを目指しています。

# 全国大会オンライン講演会

～自分に素直に生きる大切さ～

和4年1月31日、増加傾向にある自殺やいじめなどの課題への認識を深めていただけたらと思います。この講演会は、これまで集約型の開催であったが、今年度は、分科会形式での開催となりました。令和4年2月には香川大学教育学部附属特別支援学校PTAのみならず、また、お申し込みいただいた学校園へ講師をお送りし、開校以来、おかげさまで、コロナ禍の観点から、都道府県をまたいだ講師派遣を自粛しつつ、オンライン研修を模索・構築しました。令和3年11月に茨城大学教育学部附属中学校1学年のみならず、茨城の中学校・高等学校の先生方にも研修を行いました。この研修は、先生方の「あいさポーター研修」の重要性を再認識し、研修の機会を多くいただくことを目指しています。



ずっと好きは難しいから、自分を嫌いではなければそれでいい、ハードルを低くして生きてみよう」といったご提言をいただきました。また、地球の広報・旅人・エッセイストのたかのりこ先生は、「毎日生きてるだけで、めっちゃめちゃ頑張ってる、自分の40兆個の細胞をほめちぎってあげてください」と「自分をイジメず、毎日抱きしめる習慣を！」と語りかけてくださいました。子どもたちにもたい大切なメッセージをたくさんいただきました。貴重な講演会となりました。

# アンケートのお願い

附属だより119号をお読みいただいた感想をお寄せください。こちらのURL <https://forms.gle/5HguWZChtoJoM6Fo8> 又は、右記QRコードからアクセスしていただき、ご回答ください。皆様のご協力お待ちしております。



第13回 **全国大会**

「子どもたちとこの国の未来のために～附属がこれまでやってきたこと、これからやっていくこと～」を開催スローガンに3年ぶりにハイアットリージェンシー東京から集合型で開催予定。同時に昨年、一昨年の経験を元に当日のリアルタイム配信、さらに後日のオンデマンド配信も予定中！多くの皆様のご参加及び視聴をお待ちしております。

開催日程 令和4年9月30日(金) 10月1日(土)

**全附P連絵画コンクール2022開催！！**

テーマ 「好きっちゃ～私の大切なもの～」

主管校は九州地区より、福岡教育大学附属小倉二校園。みなさんの「好き」の感情を1枚の絵で表現してご応募してください！目に映る町の風景、食べ物や人物など何でも結構です。全国からたくさんの「好き」なものが集まる楽しいコンクールを想像しております。

■応募期間 令和4年8月22日～9月12日

※詳しい情報は全附P連ホームページに掲載！→ たくさんのご応募お待ちしております！

**発行所**

全国国立大学附属学校連盟  
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門  
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F  
全附連事務局  
TEL:03-3591-2091  
FAX:03-3591-2092  
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org  
印刷:株式会社インテックス

**編集委員**

**全附連**

**全附P連**

担当副会長 谷田部 秀男 (香川高松小)

担当副会長 齋藤 伸 (福島特支)

委員長 二村 美里 (静岡浜松中)

委員長 仁木 陽介 (福岡教育小倉中)

副委員長 (松井 聖治) (北海道教育釧路義務後期)

国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

**2022年度 中途加入受付中** **カンガルー保険のご案内** **ただ今募集中!**

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

<p><b>団体総合生活保険</b></p> <p>任意加入制度</p> <p>24時間補償</p> <p>保険期間 2022年4月1日午後4時から2023年4月1日午後4時まで1年間 ※臨時ご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は2023年4月1日午後4時に終了します。) ※ご加入ご希望の方は、取扱代理店までお問い合わせください。</p> <p>加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒 ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)</p> <p>加入手続き パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。</p> <p>申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)</p> <p>※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。</p> <p>【引受保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社 (担当課)公務第二部文教公務室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2022年5月作成 22-TC01328</p>	<p><b>全員加入制度</b> ※個人での加入はできません。</p> <p>1 園児・児童・生徒、教職員の皆様のごケガなどを補償する <b>園児・児童・生徒・教職員総合補償制度</b> (学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)</p> <p>2 園児・児童・生徒、教職員の皆様を犯罪事故からお守りする <b>犯罪被害事故見舞補償制度</b> (傷害総合保険)</p> <p>3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する <b>PTA活動総合補償制度</b> (普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)</p> <p>保険期間 2022年6月1日午後4時から2023年6月1日午後4時まで ※「カンガルー保険(全員加入制度)」は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のペナネームです。 ※この広告は概要を説明したものと異なります。詳細はパンフレットをご覧ください。</p> <p>【引受保険会社】 損害保険ジャパン株式会社 団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-5408 FAX:03-6388-0162 SJ22-02129 2022年5月30日</p>
--	---

**カンガルー保険・取扱代理店の お問合せ先**

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》  
**株式会社 第一成和事務所**  
東京都中央区日本橋久松町11-6 日本橋TSビル 8F ☎ 0120-100-492

《東海・近畿・中国・九州地区》  
**海上商事 株式会社**  
東京都渋谷区代々木2-11-15 新宿東京海上日動ビルディング ☎ 0120-745-748